

# 時の蘇生・柿の木プロジェクト

## Revive Time: Kaki Tree project

この度、Akio Nagasawa Gallery Ginzaは、「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を開催致します。

「時の蘇生・柿の木プロジェクト」は、平和と命の大切さを学ぶアートプロジェクトです。1945年、長崎で被爆しながらも奇跡的に生き残った一本の柿の木。その母木から生まれた「被爆柿の木2世」の苗木を世界中の子どもたちに手渡し、柿の木をテーマにしたアート表現をしながら育ててもらうものです。アートには他者の痛みを想像する力、新しい世界を創造する力が宿っています。それは国や宗教、人種や言葉さえも乗り越え共感を与えるもの。発足から29年を迎え、参加した3万人を超える子どもたちの心の中にアートの種・平和の種を撒き続けてきた「柿の木プロジェクト」の活動を紹介いたします。ぜひこの機会にご高覧ください。

### 《展示会概要》

プロジェクトの代表を務める宮島達男が、1998年に国際連合本部（ニューヨーク・アメリカ）で展示した「ブロンズで型取りされた被爆柿の木2世」からスタートします。原子爆弾の形にも似た両義的なこのオブジェは、続く空間で長崎に原爆が投下された時刻を示し続けるアルフレッド・ジャーの作品と呼応しています。歴史的な事件や悲劇に関心を寄せて制作を続け、第11回ヒロシマ賞を受賞したチリ出身のジャーが2020年に発表した〈ヒロシマ、長崎、福島〉の一部で、本展への賛同を得て対置しました。加えて、長崎で被爆した柿の木が復活を遂げ、世界中の子どもたちと出会っていくまでを描いた「柿の木の物語」や、今や26国・300以上の地域へアートの枠組みを超えて広がった植樹の、代表的な地域について展示にてご紹介します。また、世界中で最も多くの植樹を行ってきた国・イタリアで、今年の春に行われた「植樹式」や「植樹周年祭」に関する映像作品や、アーティスト・北上貴和子の描いた生命力あふれる大きな柿の木に、来場者が平和を祈るメッセージを書き貼っていく参加型の作品など、多様な形で「平和への思い」に触れていただく展示構成となっています。また会期中は、展示会場にて、平和を感じるための対談やワークショップなども随時開催します。

タイトル 「時の蘇生・柿の木プロジェクト」  
会期 2024年8月1日（木）～8月31日（土）  
11:00-19:00 火曜～土曜（日曜・月曜・祝日休廊）  
※夏期休廊：8月11日（日）～19日（月）  
会場 Akio Nagasawa Gallery Ginza  
〒107-0062 東京都中央区銀座4-9-5 銀昭ビル6F TEL：03-6264-3670  
<https://www.akionagasawa.com/jp/exhibition/kaki-tree-project/>

「時の蘇生・柿の木プロジェクト」  
オフィシャルサイト <https://kakitreeproject.com/japanese/>

## 《関連イベント①》

## ＜対談＞タナカノリユキ（クリエイティブディレクター・アートディレクター）× 宮島達男（現代美術家）

## 「アートの枠を乗り越えて ―盟友と振り返る90年代と現在―」

それぞれの活動初期から、既存のアートの枠にとらわれない多様なコラボレーションワークを展開してきた二人のアーティスト。芸大時代からの盟友が互いの原点を振り返り、現在までの軌跡と、未来への展望を語り合います。

開催日：2024年8月10日（土）17:00～18:30（受付開始：16:30）

会場：Akio Nagasawa Gallery Ginza

料金：無料

定員：30名

事前予約不要。先着順でのご案内となります。

主催：Akio Nagasawa Gallery

協力：「時の蘇生・柿の木プロジェクト」実行委員会

## ＜プロフィール＞

## タナカノリユキ（クリエイティブディレクター/アートディレクター/映像ディレクター/ビジュアルコミュニケーションアーティスト）

東京都立三鷹高等学校を経て、1983年、東京藝術大学卒業。1985年、東京藝術大学大学院美術研究科修了。修了制作が藝大買い上げ作品となる。東京藝術大学大学院在学中に第5回日本グラフィック展奨励賞（1984）、第2回JACA展特別賞（1984）。第3回JACA展グランプリ（1985）を受賞したのを皮切りに、早くからデザイン・グラフィック界でのトップランナーとして活躍。

1999年から2007年までユニクロのクリエイティブディレクターを歴任。数々のヒット広告や話題のマーケティング戦略で、グローバル企業への急成長と売上げの拡大、ブランドイメージの向上と発展に貢献。また、アートディレクター、ディレクターとしても活躍。ユニクロのブランドを確立させた。その他、国内外の企業のCI・ブランディング、クリエイティブディレクションを数多く手掛ける。現在も自身のアートワークとともに、グラフィック、プロダクト、空間、環境のデザイン、パフォーマンスの演出、映像のディレクション、広告、CI・ブランド、商品開発、文化関連事業などのアートディレクション、クリエイティブディレクションなど幅広く国際的に活躍中である。

## 宮島達男（現代美術家）

1984年、東京藝術大学卒業。1986年、東京藝術大学大学院美術研究科修了。

1988年、ヴェネツィア・ビエンナーレ、新人部門に招待され、デジタル数字を用いた作品で国際的に注目を集める。

以来、国内外で数多くの展覧会を開催している。2006-2016年、東北芸術工科大学副学長。

2012-2016年、京都造形芸術大学副学長。現在、京都芸術大学客員教授、東北芸術工科大学客員教授。

代表作に「Mega Death」、「Sea of Time」、「Time Waterfall」など。また、長崎で被爆した柿の木2世を世界の子どもたちに育ててもらおう活動、「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を1996年より推進している。

《関連イベント②》

### ＜柿の木トーク＞

みんなあつまれ！クールシェアして、平和を伝える柿の木についてもっと知ろう！  
～柿の木からみる次世代への継承のカタチ、イタリアと日本の植樹地だより～

第一部：新着！イタリア植樹地レポート  
話し手：「時の蘇生・柿の木プロジェクト」実行委員

第二部：学校・まち・美術館 それぞれの継続するチカラ  
出演：柿の木プロジェクト植樹中心者および参加アーティスト  
聞き手：宮島達男

「時の蘇生・柿の木プロジェクト」実行委員会は、今春、欧州の主要な植樹地であるイタリアを訪問し、柿の木の成長を見てきました。20年、25年と活動を続けてきた植樹地では次世代へプロジェクトのメッセージを伝える人々がいます。そして同様に日本でも地道な活動を続ける人々がいます。彼らの活動を知り、一緒に平和への想いを共有しませんか？

このプログラムでは、第一部は初公開のイタリア周年祭の映像をもとに、現地レポートをお届けします。第二部では日本で紡がれてきた活動者をお迎えし、宮島達男が聞き手となり、各地でのエピソードから活動の力に迫ります。また会場ではお子さんを対象に柿の実折り紙を折ったり、平和のメッセージを描いたり、委員とお話ししたり、涼みだけでなくそれぞれの平和アクションをシェアしましょう！

開催日：2024年8月24日（土）13:30～15:30（開場：13:15）  
会場：Akio Nagasawa Gallery Ginza  
料金：無料  
対象：小学生から大人まで  
小さなお子様連れのお客様も大歓迎  
定員：30名  
事前予約不要。先着順でのご案内となります。

主催：「時の蘇生・柿の木プロジェクト」実行委員会

※会期中はこの他にも、柿の木を身近に感じていただけるワークショップなどのイベントを、随時開催いたします。  
最新情報は、ギャラリーのHPをご確認ください。

《広報・ご取材に関するお問い合わせ》

AKIO NAGASAWA Gallery | Publishing (担当：中田) [nakata@akionagasawa.com](mailto:nakata@akionagasawa.com)

※ご希望の画像番号をお知らせください



1.



2.



3.



4.



5.

### 柿の木プロジェクトのはじまり



1945年（昭和20年）8月9日、長崎に落とされた原子爆弾。

この一発がもたらした強烈な熱線と爆風は、多くの人々を殺し、長崎の街を一面焦土に変えてしまいました。しかし、そんな中、奇跡的に生き残った一本の柿の木があったのです。ただ、その半身は真っ黒に焼け焦げ、いつ倒れてもおかしくないほど弱っていました。1994年、長崎に住む樹木医の海老沼正幸は、弱った柿の木を治療し、「被爆柿の木2世」の苗木を生み出すまでに回復させました。

そして海老沼は、この「被爆柿の木2世」の苗木を平和の象徴として、長崎を訪れる子どもたちに配っていたのです。



それを知った現代美術家の宮島達男は、1995年、海老沼の活動をアーティストとして応援するため、展覧会で苗木を展示し、里親を募集しました。

こうした過程の中、彼は「時の蘇生・柿の木プロジェクト」というアートプロジェクトを構想、同実行委員会を立ち上げました。

そして翌1996年に、「被爆柿の木2世」がプロジェクトの第1号として、旧柳北小学校（東京）に植樹されたのです。